生流曼荼羅

NPO法人
熊野生流倶楽部

2006.6　VOL.1

特集

蟻のままの熊野詣で／熊野塾ウォーク報告

第62回神宮式年遷宮お木曳行事

大阪市北区東天満2-2-3　ダイアパレス南森町1003号
（有限会社環文化計画内）〒530-0044
TEL.06-6354-4166　FAX.06-6357-6041
http：//www10.ocn.ne.jp/~ tamakibk/

第一回熊野詣でに想う…！

特定非営利活動法人
熊野生流倶楽部代表　**満仲雄二**

熊野への第一歩を踏み出す

前日の朝、天気予報は雨と言っていたが、まさにこれぞ熊野の仕組みか？…賢い人間が衛星を飛ばして頭とコンピュータでどれだけ明日の天気を予測しても、たった一羽の渡り鳥が、天空を横切るだけで「自然の気流のバランスは変わるのさっ！」…と言う訳で、5月14日は朝から五月晴れの天気に恵まれ、私達は熊野への第一歩を踏み出したのである。

かって数え切れない程多くの熊野詣での人々が、この天満橋・八軒家の浜を行き来したのだと思う？そのひとり一人の胸の奥深くには、一体どんな想いや願いがあったのだろうか？…村の皆んなの願いを一身に背負って歩く者、病を患う家族をどうしても治したい一心の者、もう一度人生をやり直したいと願う者、恋する人を慕って追いかけて行った人…老若男女の様々な想いが交錯しながら、この八軒家浜は賑わっていたのだろう。

今でこそ、電車や自動車で熊野へ日帰りもできるが、当時は往復延々約一ヶ月の旅路。歩きっぱなしで足にいくつもマメもでき、嵐や日照りにも負けず、ひたすら淡々と熊野三山を目指した、その不屈の精神には感嘆するものがある。一体、現代の私たちと何が違ったのだろうか？古来から太陽は、東から上がり西へ沈んでおり、人間の姿かたちもさほど変わってはいない…今も誰もが母のへその緒につながれてこの世に生を受け、その赤子の泣き声も変わることはない。…ただ変わった事は、身の回りに私たちが近代化のなかで、創り出した文明の利器やモノ、情報や食品が溢れかえっていることである。千年前に比べたら、ずいぶん豊かになった現代人はしかし「物足りても、なお心がモノ足りない！」と言う、ココロの飢餓に陥っているようである。

熊野の引力は癒しの波動

ふと「なぜ？地の果ての遥か彼方の熊野まで…!?」そもそも私の自らへの問いかけは、ここから始まった。日本全国・津々浦々から、老若男女を遍く引き付けるエナジー…熊野の引力は、一体「何を」善男善女の心の奥底に、投げかけたのだろうか？そのココロへの周波数（癒しの波動）は、人々が命を懸けて地の果てを訪ねるに値するものだったに違いないと思う…！

この熊野街道は、八軒家の船着場からやや上り坂のお祓い筋を通り、上町台地の頂き部をずっと南へ続いている。熊野まで九十九王子あると言われている王子社は、大阪市内では詳しい資料や跡地がない為、管理上合祀されたり伝説の地しか残っておらず、窪津王子も坐摩神社行宮に祀られている。窪津の津が港を表すことと、もともとこの地一帯が渡辺の津と呼ばれ、海辺だったことがうかがい知れる。

今夏の休日―
黒潮を聴きに行く。

雄大な大平洋を眺めながら、
爽快な気分で空気を満喫！
海岸線に点在する
南紀の癒しのスポット。
潮風の心地よさ、
水平線に沈む夕陽の美しさ…、
全てが最高の贅沢。

国内・海外の旅の思い出を最高にメイクアップします。

ワールドエキスプレス大阪
大阪府知事登録旅行業者代理業 第5275号
〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル602
TEL.06-6345-8873　FAX.06-6345-7011　担当　久保山　緑

時間の旅人として、古代の想いと交流

遙か2万年程前の縄文時代には、東に河内湖（＝東大阪）が広がり、西はチヌの海（＝大阪湾）が上町台地を囲んでいたようだ。そして千年前の平安時代の上町台地の西側を下りた辺りは、海岸線だったようである。お祓い筋を歩くとき、心の中に時を超えてそのような原風景が、イメージ出来ただろうか？目の前に聳えるビルに決して目を奪われず、アスファルトの感触にとらわれず、自らの内奥深くに根差す魂の根っことつながっただろうか？そうすると、今いる空間が単なる場所ではなく、時間の旅人として、タイムマシーンのように甦り、古代の想いと交流できるのだ。

歴史とロマンを感じながらお祓い筋を南下していき、南大江公園内にある坂口王子跡を経ると、道路上に立つ一本の大きな榎木に出会う。この辺りは、熊野詣でや伊勢詣での人々が行き来し、この榎木を道中の目印にしていたようで、今では榎木大明神として祀られている。幸い大阪空襲の際に、戦火を免れた谷町界隈は、街並みに旧街道の情緒や長屋形式の町屋が残っており、丁寧に手入れされた路地裏の生活文化が漂い、なにわ情緒の豊かな空気感に満ち溢れている。特に五十軒筋・上汐町筋では、石畳の路地や虫籠窓、珍しいうだつのある家が町屋建築に見られ、街道の情緒を感じさせている。

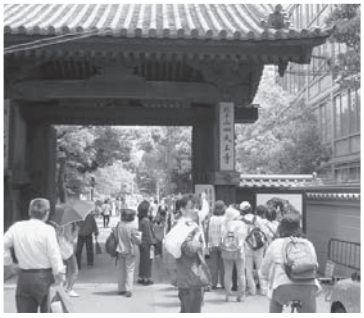
大いなる徳を有した天皇のエナジー

谷町筋の西側にある高津神社には、郡戸（こうづ）王子が合祀されている。仁徳天皇の「民の竈に煙が立って…」と言う伝説で有名なこの神社は、上町台地の西端の高台に位置しており、確かに西側に海辺の船場が広がり、昔の姿をイメージすることができる。境内の碑に刻まれている「仁の風が宇宙に満ちあふれるとき、徳となって現れる」と言う意味や、熊野街道で結ばれている堺の世界三大古墳のひとつ仁徳御陵を考えたとき、大いなる徳を有した天皇のエナジーを伺い知ることができる。

熊野礼拝石に国や社会の平安を祈った

歩を進め谷町筋に戻り夕陽丘界隈にさしかかると、西に広がる大阪湾がさらに一望できたに違いない。海に沈む太陽があまりに綺麗なのでついた地名だと言われているが、熊野詣での人々も思わず夕陽に手を合わせたことだろう。京都を朝に旅立った上皇達一行は、ちょうどこの夕陽丘で夕暮れになり、次の四天王寺で宿をとったようだ。四天王寺には、南大門のそばに熊野礼拝石が鎮座し、上皇達は国や社会の平安を祈ったようである。

庶民たちは、まだ遙か彼方の熊野を遙拝し、一体何を想ったのだろう？熊野詣では始まったばかり…あと13日はかかる道程。その想いの源泉となったのは何だろう？



熊野第一王子之宮

四天王寺のすぐそばに、熊野第一王子之宮が祀られている堀越神社がある。王子は熊野詣での人々にとっては、休憩所兼宿泊所であり、これから先の道を尋ねたり道中の事を聞いたりして、情報交流の拠点であったと思う。この神社には、一生に一度だけその人の夢を叶えてくれると言う縁起があるが、きっと熊野詣での人々が、旅の安全や極楽往生を祈ったのではないかと思いを馳せる。

陰陽師・安倍晴明ゆかりの地

次の阿倍野王子までは、天王寺駅前から阿倍野筋を南下するが、様変わりしたちんちん電車道の喧噪に、ひたすら黙々と歩く。所々にある熊野街道の石碑だけが、熊野詣でをしている実感として気持ちを支えられる程度で、松虫通りの住宅街まで一気に歩く。住宅街の中にある阿倍野王子は、唯一大阪市内で現存する王子社である。鬱蒼とした楠木に覆われた阿倍野王子は陰陽師・安倍晴明ゆかりの地。境内には八軒家の起点から、はじめて熊野の八咫烏（ヤタガラス）が祀られている。八咫烏は神を導く霊鳥としての存在で、この神社の陰陽師とゆかりが深い。昔の上皇の熊野詣では、８００人から千人規模に及んだと言い、街道を移動するだけでも大変なこと…。道に迷わず安全に、世の平安を祈りながら移動するために、熊野詣でには陰陽師が付き添ったと言われている。

遙か熊野への道へ

阿倍野王子からは、ちんちん電車の通る帝塚山の住宅街を南下する。やはりここも上町台地の頂き部にあたり、西側には海が広がっていたようだ。浜風を感じながら万代池を経ると、昔はもうそこに住吉大社の森が見えていただろう。住吉大社は底筒男・中筒男・表筒男命と息長足姫命を祀る神社。海の神様でもあり和歌つまり言霊の神様である。海からの住吉街道と大阪からの熊野街道が交わる交差点でもあり、昔は多くの会話がここで交わされたようである。まだまだこれから続く遙か熊野への道へのココロの準備や旅の安全を老若男女は命懸けで祈り、また神官や地元の人々たちは、その巡礼の旅の安泰を祈り世話し送り出した。熊野詣では、善男善女の「もてなし」と「ふれあい」のやさしいココロに支えられていたと思う。

蟻のままの熊野詣で・熊野塾ウォーク無事終了！
参加のみなさま、お疲れさまでした。

■5月14日(日)行程

10：00 天満橋交番スタート
←
10：10 八軒家浜船着場後
←
10：15 熊野古道起点の碑
←
10：20 坐摩神社行宮（窪津王子跡）
←
10：45 南大江公園・狸坂大明神（坂口王子跡）
←
10：55 榎木大明神
←
11：15 楠大明神
←
11：30 高津神社（郡戸王子合祀）（仁風敷宇宙の碑）

夕陽が丘
←
12：10 四天王寺（熊野権現礼拝石）
←
13：15 昼食・休憩
←
13：20 堀越神社（王子）
←
13：45 安倍清明神社
←
14：00 阿倍王子神社
←
14：30 住吉大社（初辰さん・樹齢千年の楠）

先導・説明＝満仲雄二
世話＝加藤孝吉・山本英世
大島瑾子・久保山緑
満仲資子

第62回神宮式年遷宮「お木曳」行事

「遷宮で結ぶ人の輪心の輪」のスローガンで始まった第六十二回神宮式年遷宮御用材奉曳「お木曳」行事。伊勢神宮の千三百年余の永きに渡り、二十年毎に新しい社殿を造り、御装束神宝を古式のままに調進してお宮をお遷りいただく神宮最大の神事は世界に類を見ない我が国独自のものであり、その根底にあるものは、古代から受け継がれてきた日本の心そのものであります。遷宮とはまさに魂の継承なのであります。

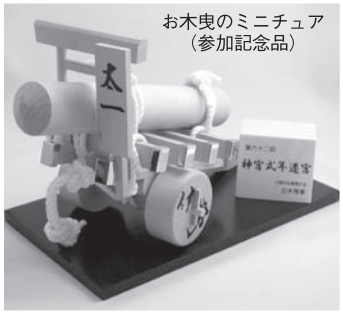
一日神領民として参加した外宮領の「お木曳」行事に先立ち、去る四月十二日、十三日の両日お木曳初式が斎行され、二年に渡り凡そ二百五十本の御用材をお納めする二十年に一度の民俗行事の幕が開かれた。内宮領の川曳、外宮領の陸曳、それぞれ伊勢の神領民が待ちに待った木曳の始まりであり、一人ひとりが心を込めて奉曳されます。

今年二月六日のお灯祭に始まり、この国の弥栄と平安を願い、天に与えられた生命への感謝を込めて今回の「お木曳」行事参加を強く願ったのです。神倉の神事は「タノムデ！タノムデ！」、神宮は「エンヤ！エンヤ！」どちらの掛け声も言霊の響きか…。

遥かな時を超えて、日本人の心が連綿と受け継がれ、平成二十五年の御遷宮に向け神宮の町は諸祭が催されます。外宮の陸曳に引き続き、来る七月二十二日、二十三日、二十九日、三十日の四日間、内宮の川曳が五十鈴川で、斎行されます。

外宮のお木曳は来年も斎行され、一日神領民として参加ができます。ご希望の方は左記へ。

御遷宮対策事務局
三重県伊勢市岩渕一丁目7―17
TEL0596・25・5215



お木曳のミニチュア
（参加記念品）

予告
今年も感動体感したい
三百余年の伝統を誇る
熊野大花火大会
まもなく参加募集

●開催日時：
平成18年8月17日（木）
19:20～21:20
●会場：
三重県熊野
七里御浜海岸
●打上玉数：
約10,000発
●主催：
熊野市・熊野市観光協会
※雨天・高波の場合延期

http://www.ztv.ne.jp/web/kumanoshi-kankoukyoukai/index.htm

あとがき

大変、長らくお待たせいたしましたが、熊野生流倶楽部の季刊情報紙がついに刊行されました。

今号は5月の熊野詣で／熊野塾ウォークの記事を中心に編集させていただきました。

今後、投稿記事やイベント情報、特集記事など、内容を充実させて年四回を基本ベースで、会員の皆様のお手元に届くように発行いたします。

熊野生流倶楽部「生流曼荼羅」
編集部